

インドネシア共和国
スラウェシ貧困対策支援村落開発計画
巡回指導調査団報告書

平成 12 年 4 月

国際協力事業団
社会開発協力部

序 文

インドネシア共和国では、開発と経済成長が進むにつれて、都市部と農村部、ジャワ島とそのほかの地域(特に東部インドネシア)など、国民の間に貧富の差と地域格差の拡大が明らかになり始めた。このため同国政府は、1994年に発表した第6次国家開発5か年計画において「人的資源の質的向上」「経済発展と経済構造調整」とともに、「平等と貧困軽減」を国家開発の中心目標に掲げ、国家的事業として本格的に貧困対策に取り組んできた。

こうした背景からインドネシア政府は、東部インドネシアの南スラウェシ州において、貧困対策事業を含む住民参加型村落開発事業の立案・運営能力の強化を図りたいとして、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

これを受けて国際協力事業団は、基礎、事前、長期の各調査を重ねて、要請内容の確認と具体的な協力内容を協議した結果、平成8年11月の実施協議調査団が討議議事録(R/D)の署名を取り交わし、平成9年3月1日から5年間にわたる「インドネシア スラウェシ貧困対策支援村落開発計画」の技術協力を開始した。協力開始後、計画打合せ、運営指導両調査団が派遣されている。

今般は、プロジェクト開始後約3年を経たので、平成12年3月20日から同31日まで、当事業団社会開発協力部社会開発協力第一課課長 押山和範を団長とする巡回指導調査団を現地に派遣し、これまでの計画達成度を調査・確認するとともに、その中間評価を行った。

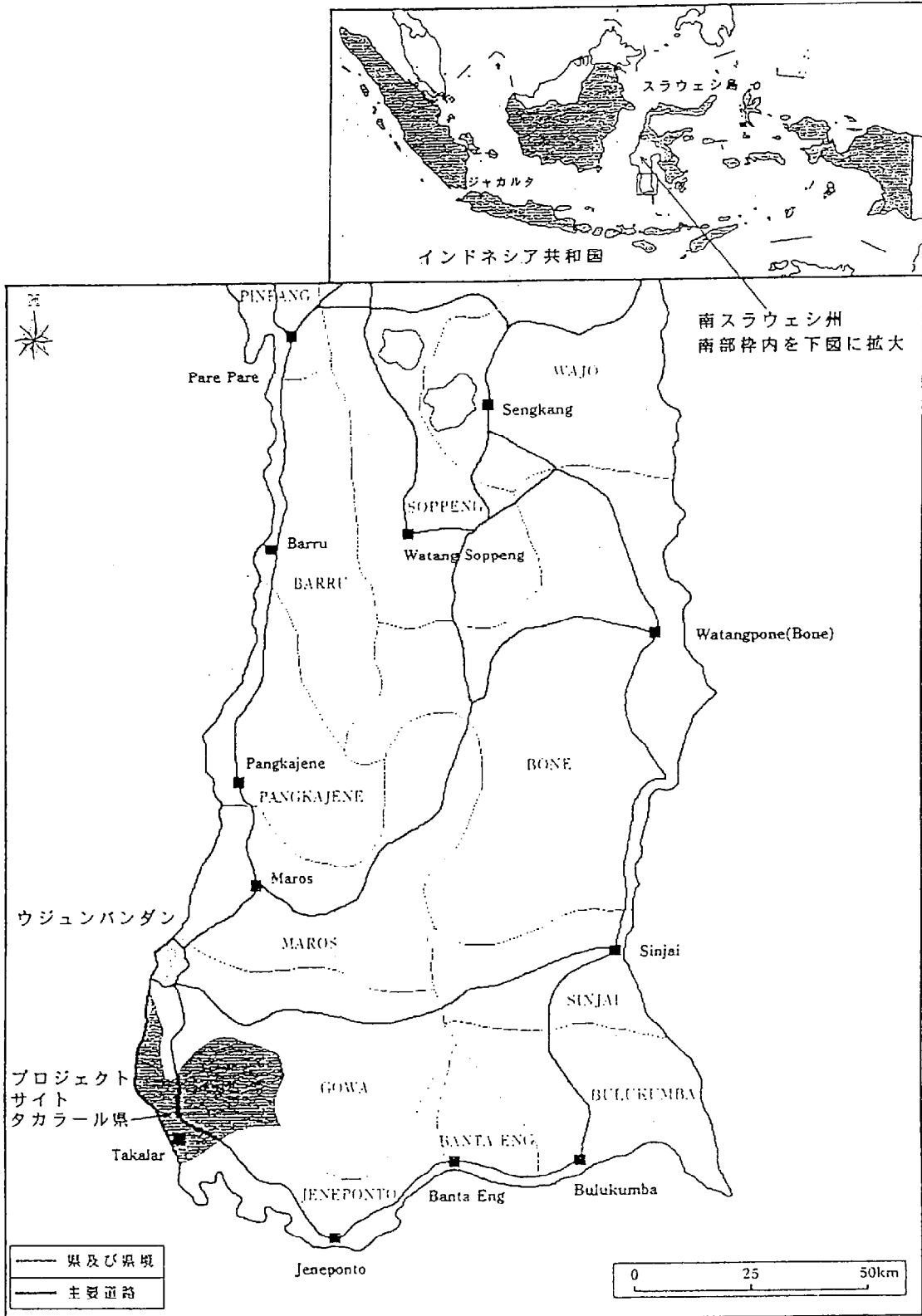
本報告書は同調査団の調査・評価結果を取りまとめたもので、今後のプロジェクト展開に広く活用されることを願うものである。

ここに同調査団の各位をはじめ、ご協力頂いた外務省、龍谷大学、在インドネシア日本大使館、在ウジュンパンダン日本総領事館など、内外関係各機関の方々に心から謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

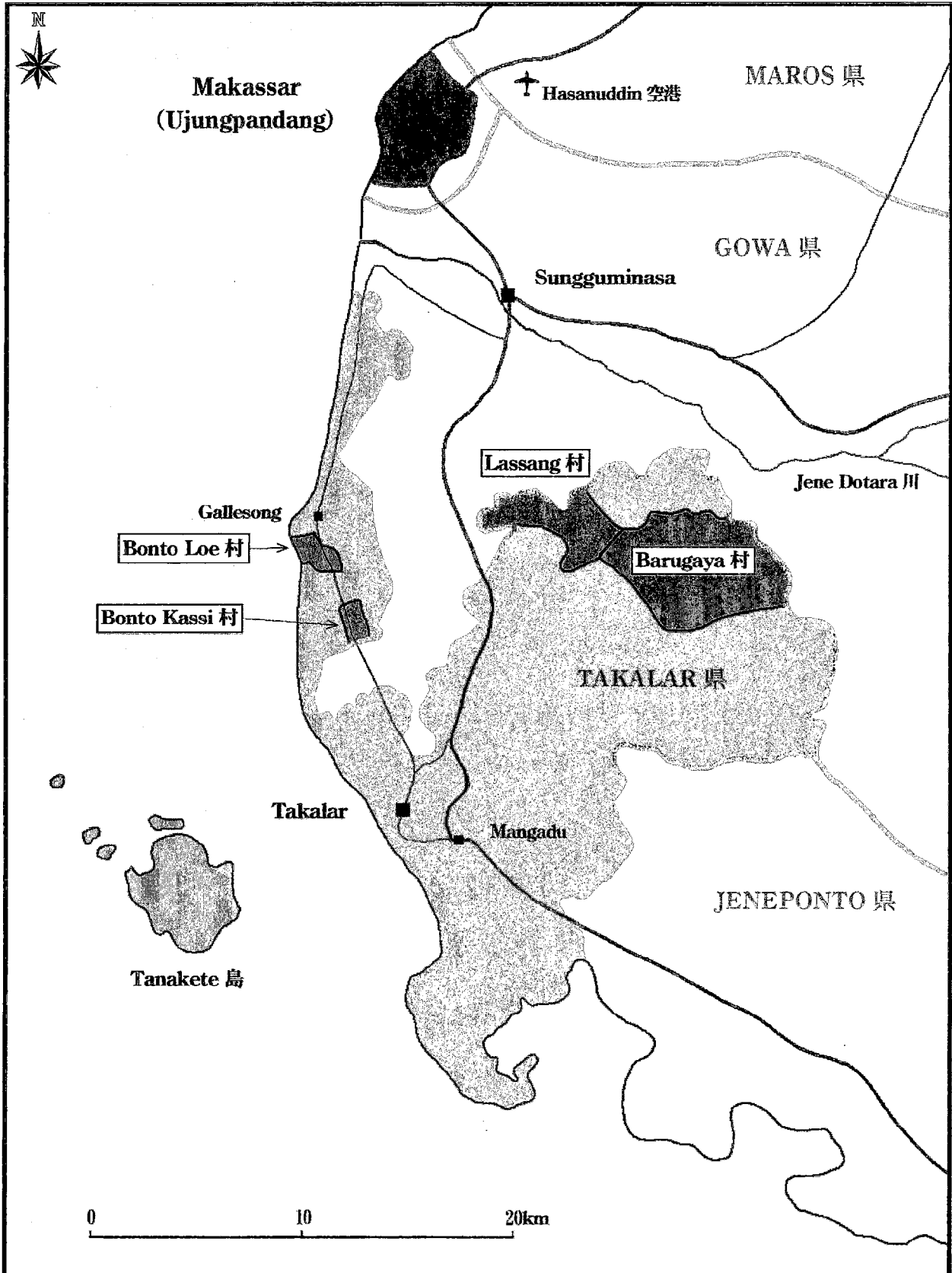
平成12年4月

国際協力事業団
社会開発協力部
部長 田中 由美子

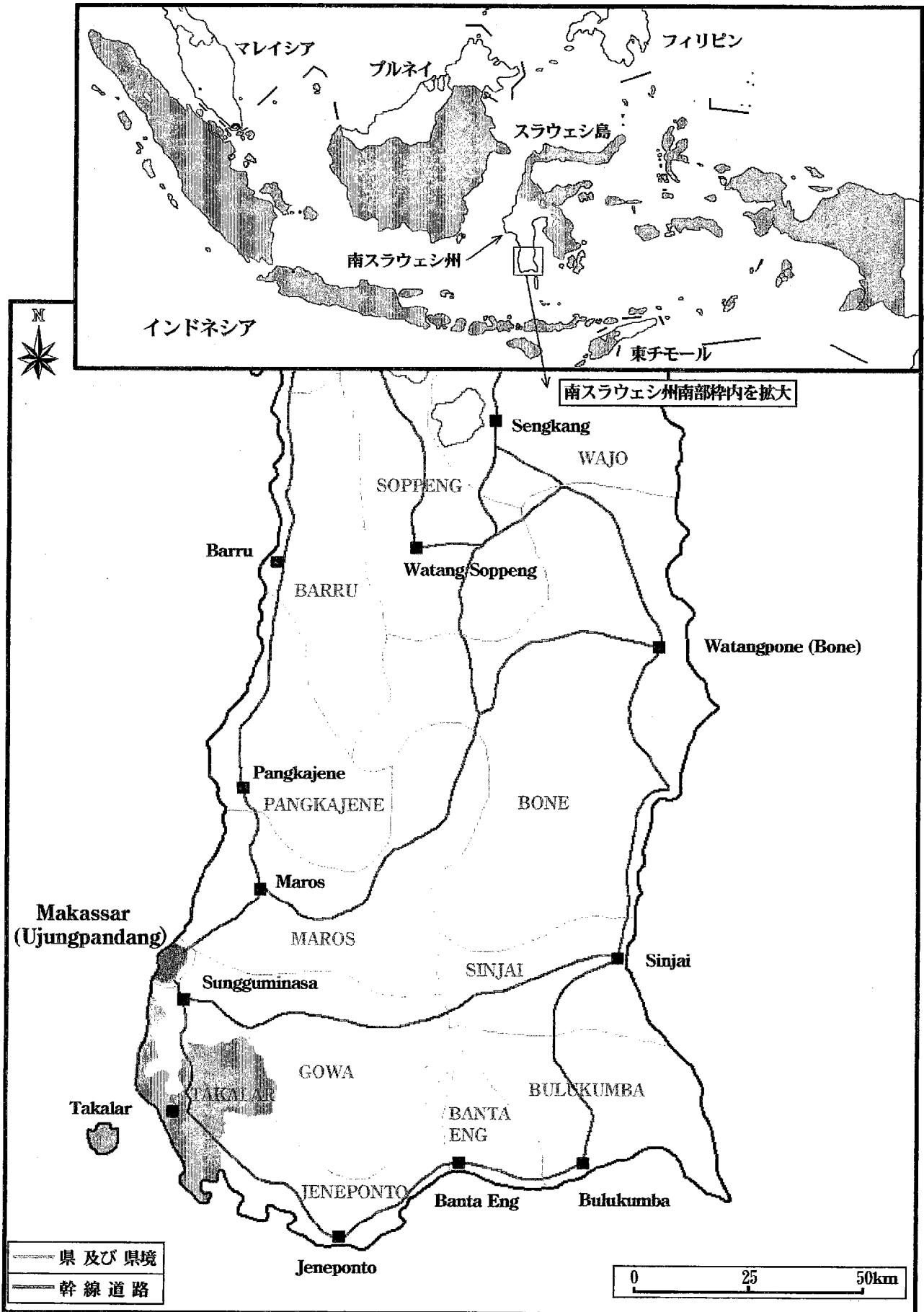
プロジェクトサイトの位置図



タカラール県ラボ村の位置図



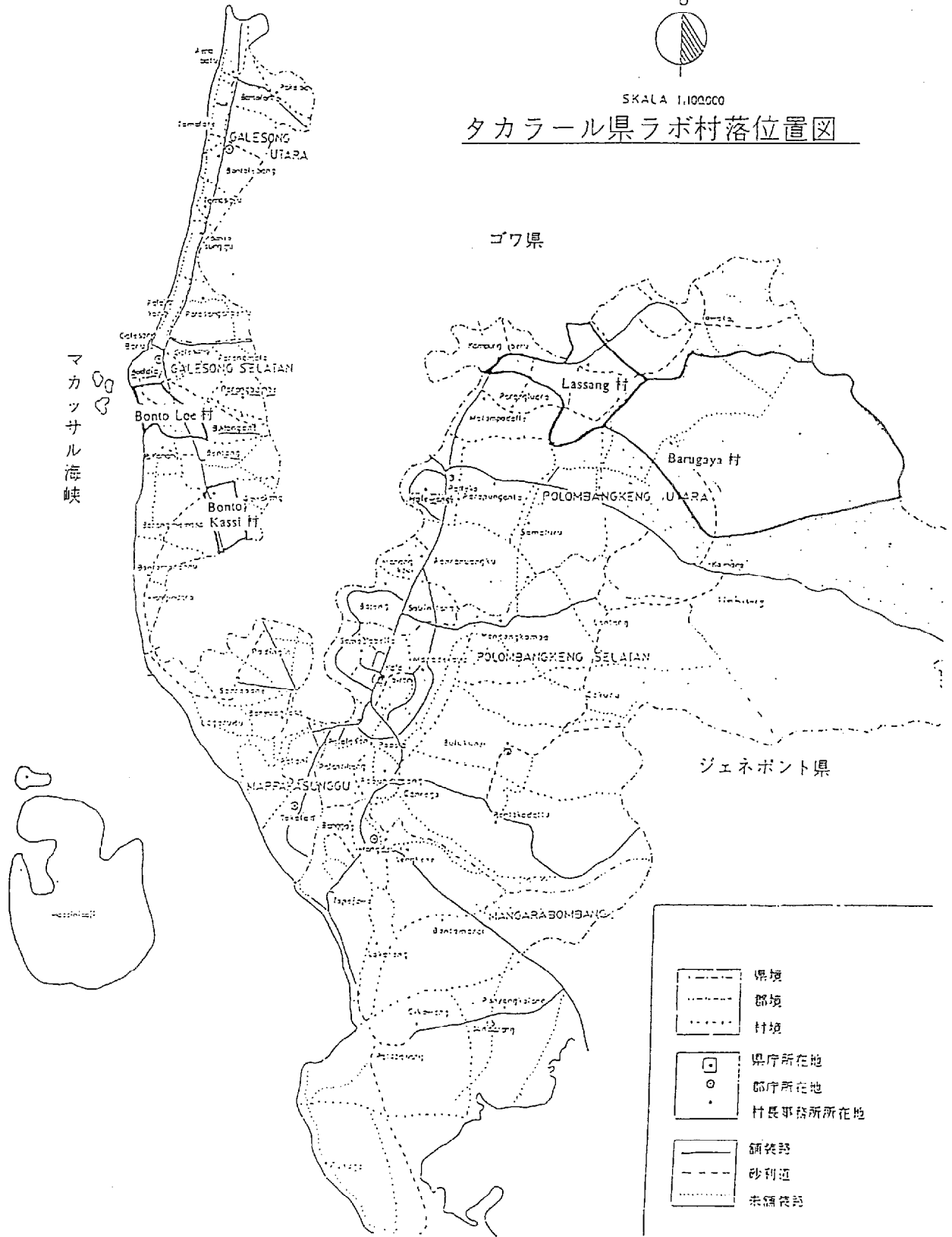
プロジェクトサイト南スラウェシ州タカラール県の位置図














SKALA 1:100,000

タカラール県ラボ村落位置図



-  県境
-  郡境
-  村境
-  県庁所在地
-  郡庁所在地
-  村長事務所所在地
-  舗装路
-  砂利道
-  未舗装路

目 次

序 文

地 図

第1章 巡回指導調査団の派遣	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	3
1 - 4 主要面談者	4
第2章 要 約	6
第3章 プロジェクトの進捗状況	8
3 - 1 投入実績	8
3 - 2 活動実績及びその成果	9
3 - 3 プロジェクト・デザイン・マトリックス(P D M)の改訂	19
第4章 評 価	24
4 - 1 目標達成度	24
4 - 2 実施の効率性	25
4 - 3 計画の妥当性	26
第5章 提言及び今後の対応課題	27
付属資料	
1 . ミニッツ	33
2 . 村落におけるワークショップで用いられた手法及び結果	56
3 . P C Mワークショップ	70